

(2) 浅瀬石・追子野木地区



人口	5,315 人
世帯	1,638 世帯
面積	1,110.6 ha

■地区の概要

浅瀬石・追子野木地区は、浅瀬石川の南側に位置し、概ね水稲単作地帯で若干の工業集積地がある。ほぼ中央には、東北自動車道黒石インターチェンジがある。

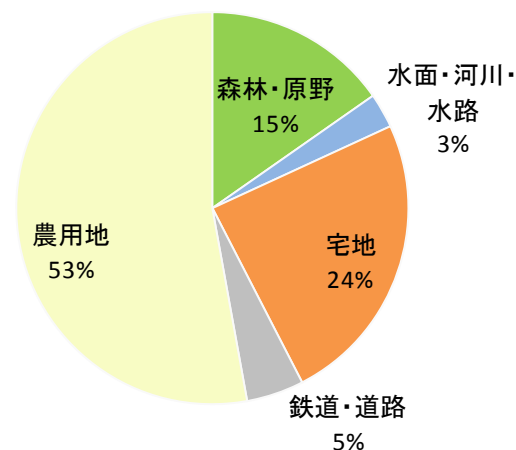
土地利用割合を見ると、農用地が半分以上を占め、次いで宅地となっている。

主な幹線道路としては、東北自動車道、国道102号が地区内を通り、東北自動車道黒石インターチェンジがある。

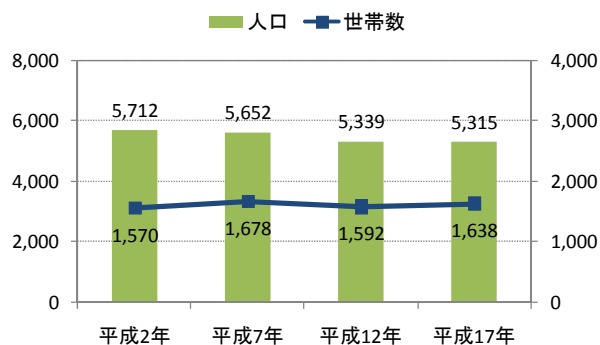
地区内の主な地域資源は、上記黒石インターチェンジのほか、浅瀬石川、点在する蔵、浅瀬石城跡、観光りんご園などが挙げられる。黒石インターチェンジに接続する国道102号沿いには沿道型の商業施設等の立地が進んでいる。

人口は、平成17年現在で5,315人であり、平成2年以降減少している。世帯数は、平成17年現在で1,638世帯であり、平成2年以降概ね横ばいとなっている。

浅瀬石・追子野木地区の面積は1,110.6haで、全域が都市計画区域に指定されている。土地利用の状況を見ると、農用地が全体の約1/2を占めている。



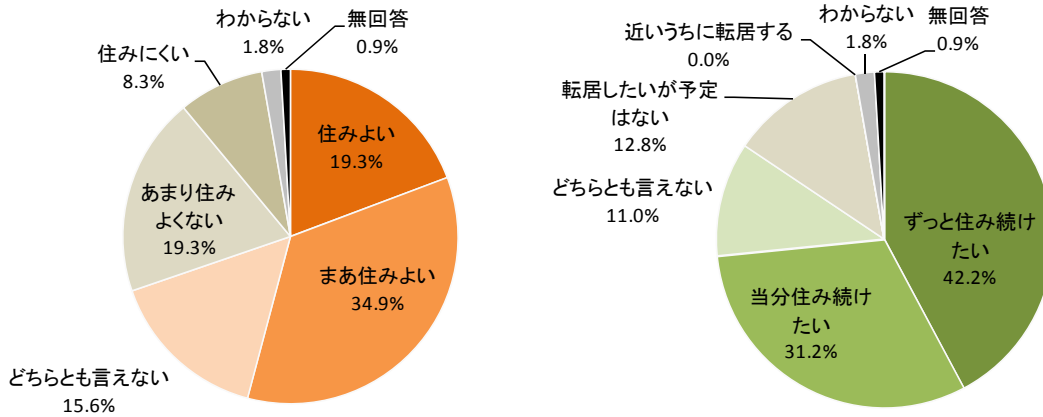
※都市計画区域内の土地利用割合



■地区住民のまちづくりの評価 《 アンケートから 》

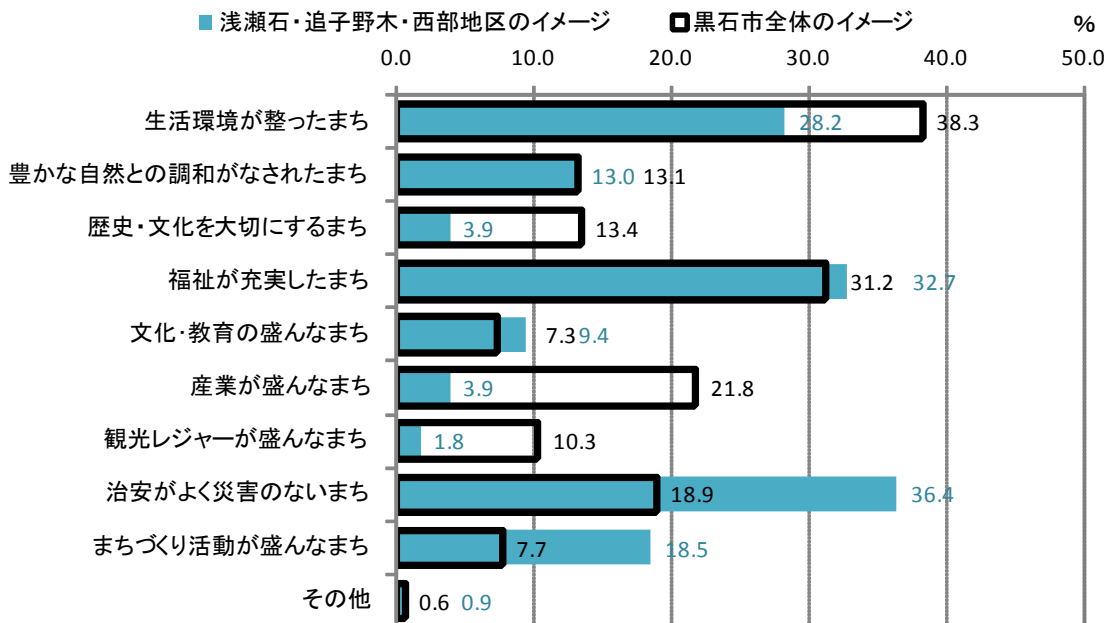
有効回答数：109票

【住み良さと今後の居留意向】



浅瀬石・追子野木地区では、「住みよい」と答えた人が19.3%、「まあ住みよい」と答えた人が34.9%おり、一方、「住みにくい」「あまり住みよくない」「どちらとも言えない」と答えた人は43.1%となっている。定住意向については、「ずっと住み続けたい」「当分住み続けたい」と答えた人は73.4%、「転居したいが予定はない」と答えた人は12.8%となっている。

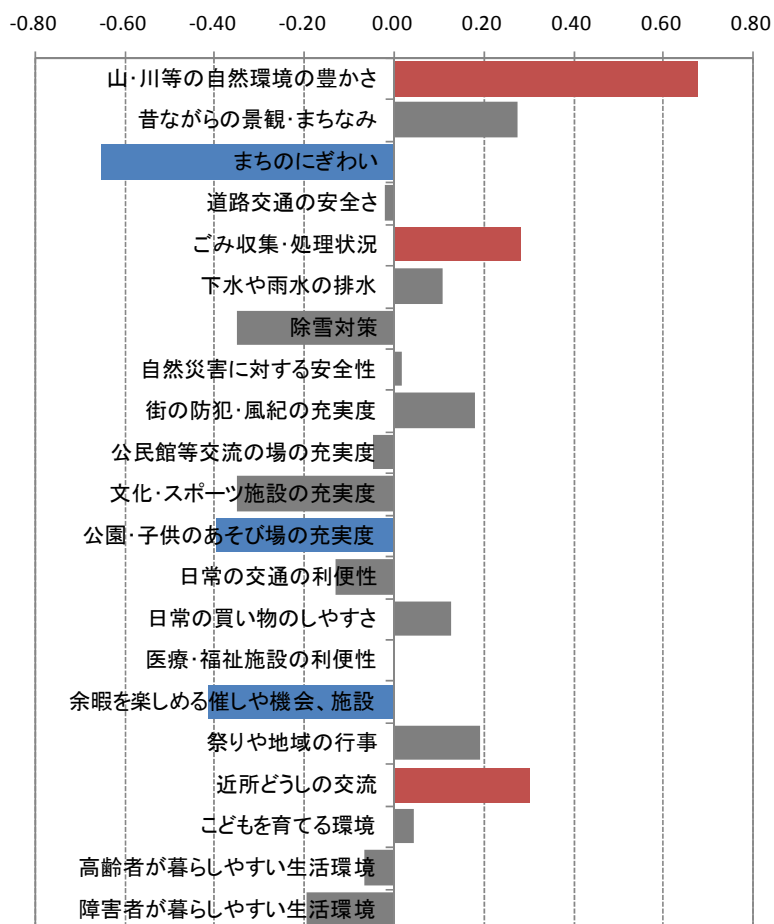
【20年後に期待するまちのイメージ】



「黒石市全体の将来イメージ」と「浅瀬石・追子野木地区の将来イメージ」についてアンケートを行った結果である。

黒石市全体では、「生活環境が整ったまち (38.3%)」、「福祉が充実したまち (31.2%)」、「産業が盛んなまち (21.8%)」が挙げられている。一方、浅瀬石・追子野木地区では「治安がよく災害のないまち (36.4%)」、「福祉が充実したまち (32.7%)」、「生活環境が整ったまち (28.2%)」が多く挙げられている。

【住環境での満足度】



満足度の高い項目と満足度の低い項目が半数ずつとなっている。
 プラス評価の項目のうち最も満足度が高かったのは「山・川等の自然環境の豊かさ」であり、次いで「近所どうしの交流」「ごみ収集・処理状況」である。
 一方、「まちなぎわい」「余暇を楽しめる催しや機会、施設」「公園・子どものあそび場の充実度」で満足度が低くなっている。

【自慢できるもの、将来に残し伝えたいもの】

祭り・催し	<ul style="list-style-type: none"> ・黒石よされ祭り ・黒石ねぷた ・旧正マッコ市 	自然風景等	<ul style="list-style-type: none"> ・中野のみみじ山 ・青荷温泉 ・虹の湖 	特産物	<ul style="list-style-type: none"> ・りんご ・黒石のやきそば ・お米
文化財	<ul style="list-style-type: none"> ・重要伝統的建造物群保存地区 ・中野神社 ・高橋家住宅 	文化・観光施設等	<ul style="list-style-type: none"> ・津軽伝承工芸館 ・浄仙寺 ・スポカルイン黒石 ・りんご研究所 	※各項目の上位3位まで	

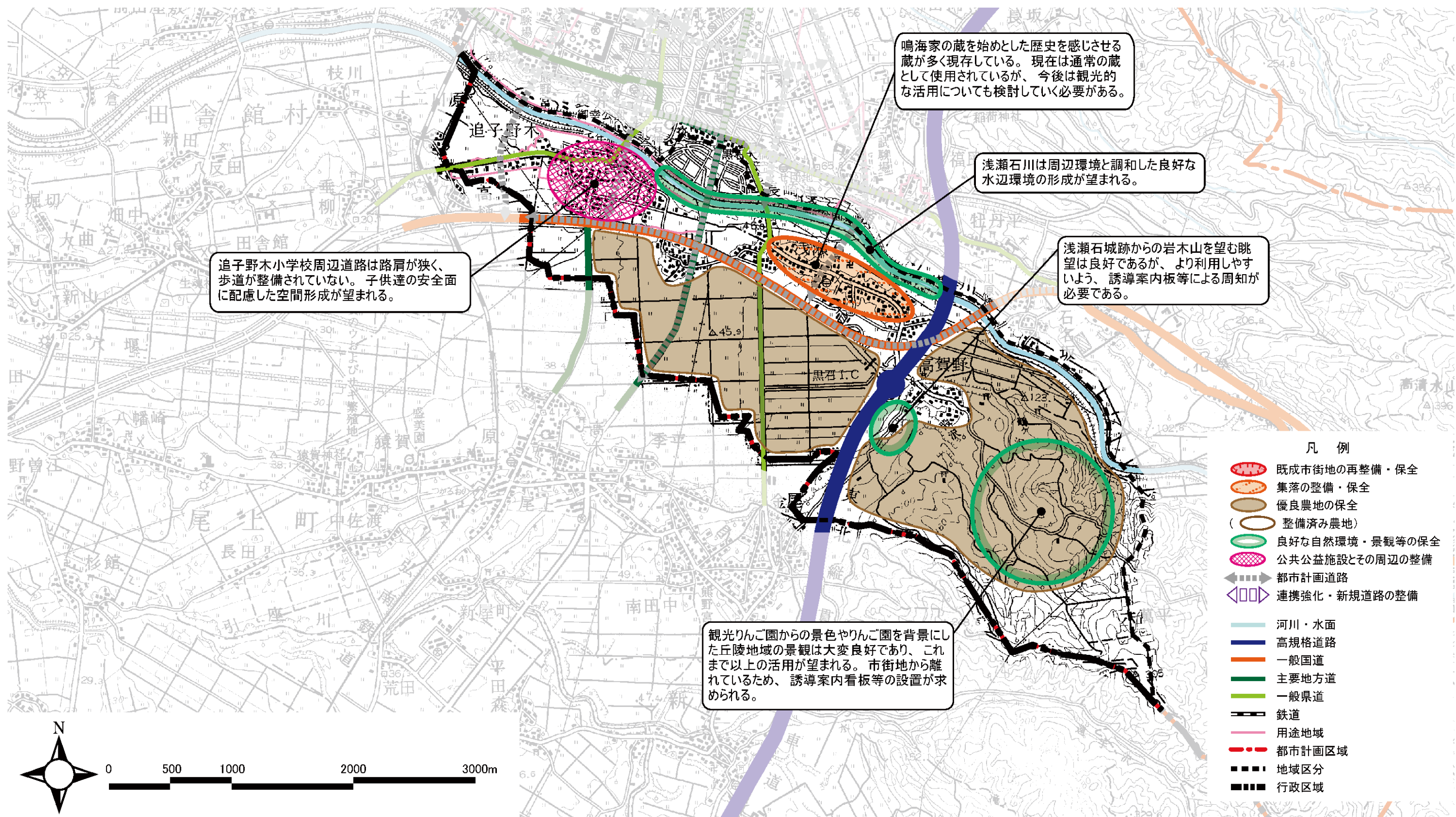
■現況写真

	<p>[追小野木小学校前通り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩道が整備されておらず、街灯も少なく路肩も狭い道路で、改善が求められる。
	<p>[浅瀬石川沿い]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浅瀬石地区の象徴的な河川。河川沿いにはサイクリングロードや広場などが整備されている。 ・河川をより利用しやすいよう、案内板等によるPRの必要がある。
	<p>[蔵の道]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浅瀬石地区の中心部を通る道路沿いに昔からの蔵が点在している。 ・現在も使用されているが、公開して新たな黒石の顔として蔵の街並みとしての展開が望まれる。
	<p>[浅瀬石城跡]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒石 I C 南東の高台には、浅瀬石城跡がある。現在は案内板などがあるのみで城の面影はないが、歴史を知ってもらうためにも有効活用が必要である。 ・岩木山などの良好な眺望が広がる。
	<p>[観光りんご園]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浅瀬石地区の丘陵地に観光りんご園がある。 ・黒石市内や岩木山を一望できる良好な眺望が広がっている。 ・PRが足りなく情報発信が必要である。 ・気軽に訪れる事が出来る環境と休憩できる場所も求められる。

■まちづくりの問題・課題

まちづくりのテーマ	まちづくりの問題・課題	まちづくりの動向
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浅瀬石川周辺においては、雄大で良好な自然環境を活かした街並みの形成・整備が求められている。 ・ 国道 102 号沿いの商業施設は、空き店舗となっている箇所が多くみられ、地区の印象にも大きく影響するため、活性化などの対策を検討する必要がある。 ・ 大規模店舗が撤退した跡地の有効利用が望まれている。 	
自然環境・景観	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浅瀬石川沿いは周辺環境と調和した良好な水辺環境の形成が望まれる。また、自然を活かしたサイクリングロードや水辺の広場などが整備されているが、より利用しやすいよう、案内板等による PR の必要がある。 ・ 観光りんご園からの景色やりんご園を背景にした丘陵地域の景観は大変良好であり、これまで以上の活用が望まれる。市街地から離れているため、誘導案内板等の設置が求められる。 ・ 浅瀬石城跡からの岩木山を望む眺望は良好であるが、より利用しやすいよう、誘導案内板等による周知が必要である。 ・ りんご園や水田などの優良農地の保全が求められている。 ・ 北国の特性でもある、雪の有効利用について検討が望まれる。 	
道路・交通	<ul style="list-style-type: none"> ・ 追子野木小学校周辺道路は路肩が狭く、歩道が整備されていない。子ども達の安全面に配慮した空間形成が望まれる。また住宅が密集している地区もあるため、災害に強く使いやすい道づくりが望まれる。 ・ 地区内及び周辺地区との連携を強化する道路が望まれる。 ・ 地区南北を縦断する主要地方道大鱈浪岡線は交通の要衝であり交通量が多いため、バイパス等の整備が求められる。 ・ 住宅地において、狭隘歩道や段差等により歩行者・自転車の安全で快適な交通環境が確保されていない。 ・ 市内循環バスぷらっと号の利便性の向上が望まれる。 ・ 東北自動車道黒石 I C の利用促進が望まれる。 ・ より適切な除排雪体制の充実による冬季の交通確保が望まれる。 	
施設整備等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 河川沿いの集落については豪雨時の対策が必要である。 ・ 浅瀬石地区には、鳴海家の蔵を始めとした歴史を感じさせる蔵が多く現存している。現在は通常の蔵として使用されているが、今後は観光的な活用についても検討していく必要がある。 ・ 観光りんご園は、より観光客等に親しまれるような活用方策の検討が望まれる。 ・ 浅瀬石城跡は、浅瀬石地区の歴史を後世に伝えるための活用が望まれる。 	

【まちづくりの問題・課題図】



■まちづくりの方針

◎まちづくりのテーマ

『川のある風景を活かしたまち』

◎まちづくりの基本方針

- ・豊かな自然や河川、貴重な歴史遺産、生活を支える食のそれぞれの魅力を活かした魅力あるまちづくりを進める。
- ・中心市街地などと連携し、観光レクリエーション機能の充実を図りつつ、日常生活に密着した機能を誘導し、住商工のバランスのとれた土地利用を誘導する。

【土地利用】

既成市街地においては、地区計画や建築協定等の導入を検討し、河川景観を活かした快適でうるおいのある居住環境の形成を図るとともに、蔵を始めとする歴史的街並みの保存・活用について検討する。

国道 102 号や主要地方道大鱒浪岡線を軸とした幹線道路沿道地区については、周辺の住宅環境及び景観に配慮しつつ、沿道の立地特性にふさわしい施設の誘導を図る。

りんご園や水田など農業を続けていける環境を守っていくとともに、優良農地の保全を図る。

【自然環境・景観】

観光りんご園や水田、浅瀬石城跡、蔵などの地域資源は、その良好な景観の維持・保全を図る。

浅瀬石川については、うるおいある河川景観の形成を図るとともに、子ども達が安全に遊べる水辺空間や歩行者動線の整備等、積極的な自然資源の活用を検討する。

また、北国特有の雪を観光資源等として有効利用する方策を検討する。

【道路・交通】

既成市街地内の道路（特に小学校周辺）は、子どもなどの安全面に配慮し、歩道の段差解消や街路灯の設置等、安全性の高い歩行者空間を確保する方策を検討する。

国道 102 号をはじめとした主要幹線道路は、広域的な連携を担う路線として、その機能の適切な維持を図る。

公共交通機能として、市内循環バスぷらっと号の利便性向上を図る。

より適切な除排雪体制の充実による冬季の交通確保を図る。

【施設整備、その他】

観光りんご園や浅瀬石城跡、蔵などの地域資源について、観光施設としての活用方策を検討する。

【まちづくりの方針図】

